

令和元年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和元年8月7日(水) 14時00分～15時10分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 委員 吉村維元、靱山昌夫、牛久保浩一、林孝之、内田尚子、鈴木喜明、大野知子
(敬称略)
- 事務局 吉野教育長、高橋社会教育部長、草薙館長、戸塚副館長、土方学芸担当長
勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員、所管理担当長
- 傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 平塚市美術館協議会について
- 7 議題
 - (1) 正・副会長の選出について
 - (2) 令和元年度事業について
 - ① これまでの事業報告(事務局から説明)
○作品 ○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業 ○施設利用者等の統計
 - ② 今後の事業予定(事務局から説明)
○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業
 - (3) その他
- 8 閉会

■委嘱状の交付

教育長から委嘱状の交付を行った。

■教育長あいさつ

委員会開催にあたり、吉野教育長から挨拶があった。

■議題及び質疑

- (1) 正副会長の選出について
会長に吉村維元委員、副会長に靱山昌夫委員を全員一致で承認し、選出した。
- (2) 令和元年度事業について
 - ① これまでの事業報告

◆令和元年7月までの展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

◆その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理等の内容を事務局から説明。

② 令和元年度の今後の事業予定について

◆下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

◆その他の事業の内容等を事務局から説明。

(質疑)

◆展覧会事業について

委員 中小都市の公立美術館ということで、予算が厳しい中、いろいろ努力されて多くの観覧者を集めている。いろいろと御苦労されていると思うが、これからの平塚市美術館について展望があれば聞きたい。

事務局 当館の開催する展覧会では、作品を1か所から借りてくる企画が多いが、それは、展覧会経費では集荷返却の費用が一番かかるためであり、なるべく経費を抑える努力をしている。昨年の夏は思いがけず観覧者が大変多かったが、片や思いのほか観覧者が少ない展覧会もあって、我々でもわからないことがある。夏休みは親子で楽しめるようなポピュラーなもので展覧会を行い、秋冬の時期は一般向けではなく、内容的に素晴らしいものをと考えている。

委員 展覧会では「彫刻とデッサン展」を拝見したが、確かに彫刻の展覧会は輸送も難しいし、展覧会を開催してもなかなか人が集まらないが、この展覧会は“デッサン”をキーワードに大変意義深いものだったと考えている。

委員 「彫刻とデッサン展」は、個人的な思い出もあるが、非常に良い展覧会だったと感じている。すごく感動した。他の委員も発言されたが、橋本平八以降、現代に至る日本の彫刻の流れというものを俯瞰的に見入ることができて、とても特色があるし、内容も充実していた。それが平塚で見ることができたことがとてもうれしかった。

鳥海青児展も興味深いし、秋野不矩展もあり、今年も例年と同じかそれにも増して非常に内容が充実しており、非常に真摯なというか、良い展覧会が準備されていて楽しみである。昨年の夏はすごかったが、今年は落ち着いて、非常に良いものになるのかなという期待と予感が持てる。今後も良いものを期待している。

事務局 本来であれば、いろいろなところから作品を借りて展覧会を充実させたいが、なかなかそれはできない。どの事業も予算が縮減されているが、美術館は観覧者数という目に見える成果が出てくる。それを充実させるためには、ある程度大衆的な展覧会もやらなければならない。一方で専門的な展覧会もやらないと美術館のクオリティーが下がってしまう。将来的には時代のニーズも変化していく中で、美術館には何が大事なのか、いつもアンテナを張りながら、このような委員会の中で委員の御意見、お知恵をいただきながら進めていきたいと考えている。

◆教育普及事業について

委員 教員向けの鑑賞教室が本日午前中開催され、自分も参加した。これから美術館に足を向けて

もらうには子どもたちに鑑賞の楽しさを味わせなければいけない。そのためには教員自身が鑑賞教育とはどんなものなのか味わってみて、それを学校で伝えてもらえると、美術館に足を向けてくれる子どもたちが多くなっていく。その子どもたちが大人になったときに変わってくる。長い目で見るととても良い取り組みをしているのではないかと感じている。

委員 自分の職場で教育・普及の仕事をしているが、ワークショップや対話による美術鑑賞が非常に手間のかかる事業であることは承知をしており、これだけの回数をこなしつつ、丁寧に展開されていると感じた。

事務局 ワorkshopについて、自分が来た時にはスタッフ1名程度で行っていたが、現在ではスタッフを増やして充実を図っている。ワークショップはやれば反応が良いし、小さな子どものワークショップでは子どもたちがすごく喜んでくれる。対話による美術鑑賞では、4～5名のグループに分かれて行っているが、普段、学校や教室で発言しない子どもが、鑑賞の時間では積極的に発言してくれて、子どもたちも教員の方も大変喜んでくれており、これからも継続して行っていきたい。

◆その他の事業について

委員 博物館実習生の4名というのは人数が少ないと感じたが、選考しているのか？

事務局 その年によって人数は異なるが、1校1名としている。何故当館を希望したのか等のレポート提出をさせ、それで選考している。

委員 ミュージアムホールは展覧会開催中、貸出しないということだが、会期中の利用者数はカウントしているか。

事務局 開館から閉館まで展覧会出品の作家等の関連映像をループで流しており、出入りも自由であることから、カウントしていない。

委員 中学校の職場体験の内容は？

事務局 美術館ではどんなことをやっているのかを学び、体験してもらっている。学芸担当と管理担当でそれぞれ担当者をおき、学芸員の業務も事務や受付等スタッフの業務も体験してもらっている。

委員 防災訓練の内容は？津波の訓練はしているか？

事務局 地震が来たら火災が発生したということで、通報、避難、消火体験といった内容で訓練をしている。津波については東日本大震災の後に屋上に避難する訓練をしたことがあるようだ。

委員 自分の職場は海拔15メートルで元禄地震の津波より高い場所にあるが、避難場所、避難経路も定め、対応はしているところ。最近では放火事件などもあり、不審者対策を検討しているが、こちらはどうか？

事務局 津波に関しては、当館まで浸水しないとの想定から具体的な対応はしていない。不審者対策では、事務室・警備室で監視カメラのモニターを設置しており、それを注視し続けることはできないものの、警備員の巡回のほか、適宜、職員も巡回し、フロアにいる受付・監視スタッフがきちんと注視をしていくことが重要であると考えている。

委員 こども年賀状・おとな絵てがみ展は何日間開催するのか？場所はアートギャラリーか？

事務局 年賀状・絵てがみ展は毎年年初めから1週間程度、市民アートギャラリーで開催している。

美術館を身近に感じてもらうための取り組みとして行っており、今年度11回目を迎える。

委員 ミュージアムコンサートは、平塚市出身の音楽家を招くとのことだが、どんな内容か？また、ホールの定員は何名か？

事務局 ミュージアムコンサートは毎年2月半ばに開催しており、今年の2月に開催した際は湘南地域を中心に活動している弦楽四重奏の方々の演奏でクラシックの名曲をお楽しみいただいた。このアンサンブルの演者の中の1名が本市出身ということだった。御好評をいただいております、これまでも声楽、クラシック音楽等をお楽しみいただいている。次回は平塚市出身のスタンダードジャズボーカルの方を考えている。どうしても冬場は観覧者が少ないのだが、音楽を聴きに来たことをきっかけに美術館を知ってもらい、「次は展覧会にも来てみるか」と思ってもらえればと考えている。なお、ホールの定員は150名であるが、前回のミュージアムコンサートでは、テーマホールで開催し、190名の方に御参加いただいた。

委員 美術館というと、関係者、書家は書家、写真は写真と専門分野の方ばかり集まるが、美術に接していない方を集めることで、関心を持ってもらうことのはいいと思う。

(3) その他

なし。

■閉会

館長より閉会を告げた。

次回は令和2年3月に開催予定。

以上